



KOKORO

意style

第106期 第2四半期報告書

平成28年4月1日～平成28年9月30日

タングステンリボン

当社では、独自の技術により、従来製造が不可能だった極小タングステンリボン(薄板)の開発に成功しました。極小タングステンリボンは医療用カテーテルとして用いられ、タングステンの『X線を透過しにくい』という特性により、X線を照射したモニターではステンレス製のカテーテルに比べてクリアに見えます。患者へのX線照射量を減らすなど、低侵襲(体に優しい)医療に役立っています。

 日本タングステン株式会社



ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

当社第106期第2四半期報告書(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)をお届けいたします。

本年4月に創立85周年を迎えた当社では、来る100周年に向け、「さらなる発展のためには、変わらなければいけない」という意識のもと、全社一丸となって業績向上に取り組んでおります。今後も真に価値ある商品の提供を通して世界の人々の豊かな暮らしと社会の発展に貢献し、会社を大きく発展させていくことで、株主の皆様のご期待に応えられるよう全力を尽くす所存です。

今後とも格別のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年12月

取締役社長 後藤信志

全社一丸となり、中長期

Q 当第2四半期の決算のポイント等について教えてください。

誠に遺憾ながら減収減益という業績結果となりました。

当第2四半期における経済環境は、海外では米国経済が個人消費を中心に底堅く推移しましたが、中国経済は不透明な状況が続きました。一方、国内では、円高の進行等により企業業績は伸び悩む中で、全体として横ばいで推移する状況となりました。

このような環境の下、当第2四半期の連結業績は、売上高は48億50百万円(前年同四半期比14.6%減)となり、営業利益は2億25百万円(同5.6%減)、経常利益は1億92百万円(同40.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は98百万円(同58.6%減)となりました。

売上面では、衛生用品関連のNTダイカッターは好調に推移したものの、ハードディスクドライブ(HDD)用磁気ヘッド基板及び照明用タンブステンワイヤーの需要が想定より低迷したことや、前期好調であった中国での装置関連の受注が減少したこと等が、主な減収要因となりました。また損益面では、原価低減活動を継続して行い、また原材料価格の低下による増益要因もあったものの、減収分をカバーするまでには至らず、急激な円高の進行による為替差損の計上もあり、大きな減益要因となりました。

なお、当社グループでは当連結会計年度から市場対応型組織への変更に伴い、事業セグメントを従来の「粉末冶金事業」「産業用機器事業」から「機械部品事業」「電機部品事業」

的な成長に向けた改革へ取り組んでまいります。

に変更しております。セグメント別の業績は、機械部品事業は、売上高25億81百万円(前年同四半期比22.2%減)、営業利益2億76百万円(同38.3%減)となりました。また電機部品事業は、売上高22億86百万円(前年同四半期比4.1%減)、営業利益1億36百万円(同2,290.4%増)となりました。

Q 成長軌道への回復に向けて、どのような取組みを行っていますか？

経営戦略やビジョンを根本から見直し、全社のベクトルを合わせたうえで経営改革に取り組んでまいります。

当社では、本年度を今後の中・長期的な成長への道筋を決定する「基盤」作りの年と位置付け、来年度以降の改革を目指した取組みを行っています。

従来、当社では「ものづくりの強化」「新技術・新商品の創出」「グローバル市場への対応」「人材の育成」の4つを重点施策とし業績向上を目指してきました。しかし、生産効率の向上等、一定の成果も見られる一方、注力商品の伸び悩み、新商品開発の遅れ等、課題が残る結果となり、成長軌道に乗せられていないのが実状です。

こうした現状を打破すべく、現在策定中の第7次中期経営計画では、重点4施策を踏襲しながらも、各施策に対する取組みを一から見直すこととしました。新鮮で斬新な意見・発想を取り入れていくという観点から、若手・中堅社員を含む部門横断型のプロジェクトを結成し、現場やお客様の声を反映させた、より実効性の高い取組みを検討しています。

また、成長が期待される産業分野への商品投入も積極

的に行ってまいります。当社は、長年培った固有の技術力を有していますが、その技術力を十分に活かしているとは言えず、当社技術を様々な分野や商品へ応用する余地は十分に残されていると考えています。今後は、マーケティング機能を強化することで、各分野のお客様のニーズをいち早くつかみ、当社商品群の強みによる潜在市場の掘り起こしを行い、シェアアップにつなげてまいります。

加えて、改革の成功のためには従業員の意識改革が必要と考え、従業員と意見を交わしながら会社の基本的なビジョンの見直しを行う等、従業員一人ひとりがチャレンジしながら、「変わらなければいけない」という意識をもって計画の実行に取り組む風土づくりにも取り組んでいきます。

Q 通期(平成29年3月期)の見通しについて聞かせてください。

昨今の事業環境等を勘案し、通期の業績予想の見直しを行わせていただきました。

平成29年3月期の通期業績予想につきましては、当第2四半期までの業績状況に加え、下期の国内外の需要見通しや為替の動向等の不透明な要因を勘案し、当初計画に対し下方修正を行わせていただきました。その結果、通期の連結業績見通しとしては、売上高は98億50百万円(前期比10.6%減)、営業利益は3億60百万円(同47.0%減)、経常利益は3億60百万円(同54.7%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は1億90百万円(同70.8%減)を計画しております。



Q 当期の配当について聞かせてください。

1株当たり2円の間配当を実施させていただきました。期末配当は3円を予定しております。

当期の間配当につきましては、業績の状況及び今後の投資等を勘案し、1株当たり2円の配当(前年同期より0.5円減配・当初計画より1円減配)を実施させていただきました。また期末配当としては、1株当たり3円(前期末より2円減配・当初計画より1円減配)とさせていただきます、年間1株当たり5円を予定しております。株主の皆様におかれましては、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

今後も、株主の皆様への利益還元を最重要課題の一つとして位置付け、株主の皆様のご期待に沿うべく努力してまいります。

Q 最後に、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

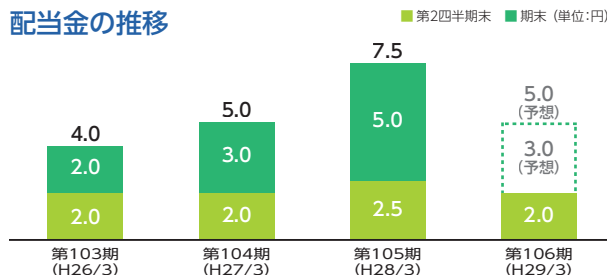
来る100周年に向け、企業価値向上と持続的成長に全力で取り組んでまいります。

100年企業を見据えて、経営改革を着実に実行し、企業価値向上と持続的成長を目指してまいります。

また、株主の皆様との対話や情報開示の充実にも積極的に取り組み、株主の皆様の信頼を得られるよう努力してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

配当金の推移



●株主の皆様の声をお聞かせください。

～アンケートのお願い～

当社では、株主の皆様からのお声をいただいて、今後のIR活動を充実させてまいりたいと考えております。同封のアンケートはがきをご確認いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

ご回答いただいた株主様の中から抽選で100名様にクオカード(1,000円分)をプレゼントいたします。

(締切：平成29年1月31日到着分まで)

※当選者の発表はクオカードの発送をもって代えさせていただきます。

世界の人々の未来を明るく照らす 日本タングステンの技術

“意外と身近”な日本タングステン

直接皆様の目に触れる機会は少ない当社製品ですが、実は、様々な場面で人々の生活を支えています。

たとえば、オフィス。当社が製造したタングステン線がプロジェクターやエアコンに使用されています。また、多くのパソコンのハードディスクドライブ(HDD)には、部品の一部として当社のHDD用磁気ヘッド基板が使用されています。

上記はほんの一例で、他にも発電所の設備や紙おむつの製造工程、自動車の部品等、様々な場面で当社製品が人々の暮らしを支えています。

成長が期待される産業分野をターゲットに当社商品を積極的に投入

そのような中、当社では、今後、新たな市場の伸びが期待される産業分野に当社の強みを生かした商品群を集中的、継続的に投入することで各分野でのシェアアップを目指します。

今後も、お客様のニーズをいち早くつかみ当社商品の強みを掘り下げることで新たな価値を創造し、世界の人々のより快適な生活へと貢献してまいります。

成長が期待される産業分野

自動車産業分野



次世代半導体分野



医療分野



衛生・介護分野



エネルギー・環境分野



商品群の強みを掘り下げる

自動車産業分野では



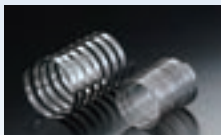
- 自動車用部品のコストダウンや生産効率の向上に寄与する当社の「抵抗溶接用電極」
- その他クルマの未来を支える新技術・新商品の投入

次世代半導体分野では



- 半導体製造用装置に用いられ、従来材料に比べて長寿命な「プラズマ耐性セラミックス」
- 半導体生産性の向上や歩留まり向上に貢献

医療分野では



- 様々なカテーテル治療に使用される「タングステンリボン」
- 当社独自の技術により、薄く、長い製品製造が可能に
- タングステンの特徴を生かし、低侵襲医療へ貢献

衛生・介護分野では



- 紙おむつ・ナプキン製造用カッターで世界第2位のシェアを持つ「NTダイカッター」
- 今後予測される、衛生関連製品の伸びに合わせ、NTダイカッターのグローバル展開を推進

エネルギー・環境分野では



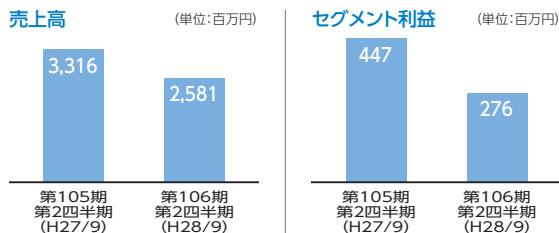
- エアコンや空気清浄器の集塵装置に使用される「高性能タングステン線」
- LEDやパワー半導体の基板等への応用が期待される液体型セラミックス「INCシリーズ」

事業別の業績概要

機械部品事業

衛生用品関連のNTダイカッターが国内、海外市場ともに好調で増収となりましたが、情報機器関連のハードディスクドライブ(HDD)用磁気ヘッド基板はパソコン需要の縮小等によりHDD市場が低迷し減収となり、装置関連も海外市場で減収となりました。

この結果、機械部品事業の**売上高は前年同四半期比22.2%減の25億8千1百万円**となり、**営業利益は同38.3%減の2億7千6百万円**となりました。



●超合金製品
売上高 **1,770百万円**



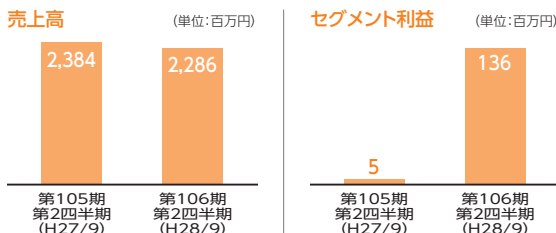
●セラミック製品
売上高 **810百万円**



電機部品事業

自動車関連の電極製品が海外向けで増加しましたが、照明関連のタングステンワイヤーがLED化の進展等により減収となりました。

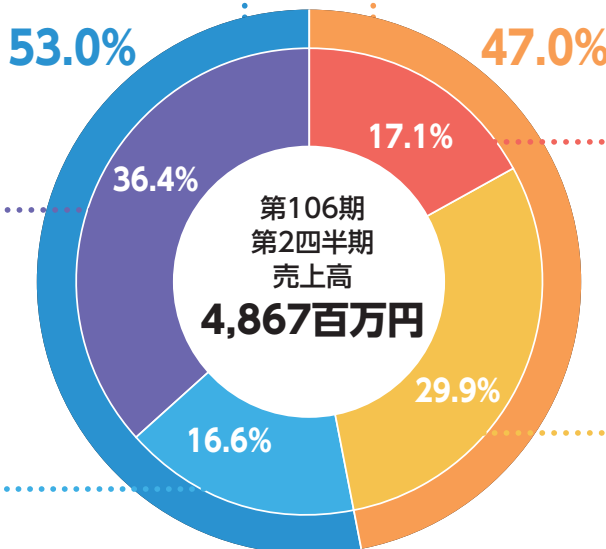
この結果、電機部品事業の**売上高は前年同四半期比4.1%減の22億8千6百万円**となりましたが、前期に実施した構造改善の効果等により**営業利益は前年四半期の5百万円から1億3千6百万円**となりました。



●金属材料製品
売上高 **833百万円**



●電気・電子材料製品
売上高 **1,452百万円**

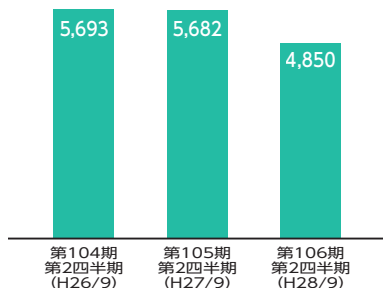


(注)売上高はセグメント間の取引を含んでおり、営業利益は全社費用等調整前の金額です。

業績の推移

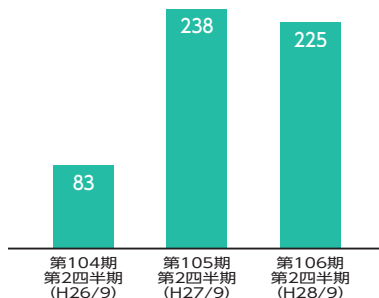
売上高

(単位:百万円)



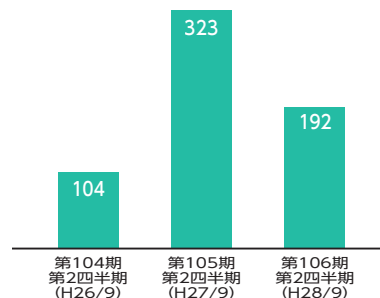
営業利益

(単位:百万円)



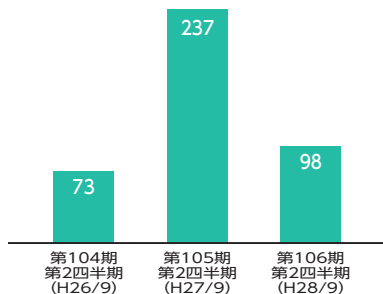
経常利益

(単位:百万円)



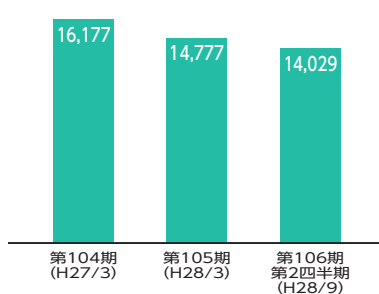
親会社株主に帰属する四半期純利益

(単位:百万円)



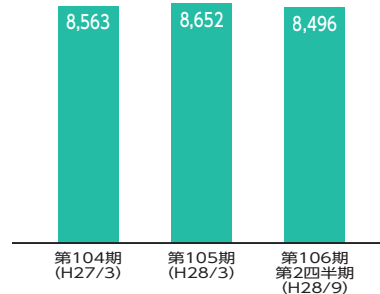
総資産

(単位:百万円)



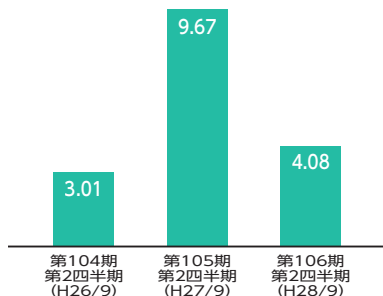
純資産

(単位:百万円)



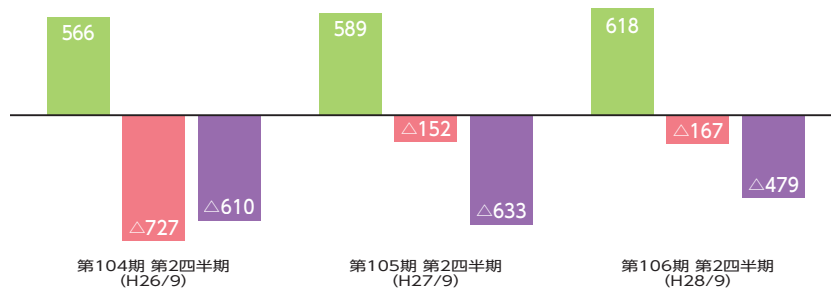
1株当たり四半期純利益

(単位:円)



キャッシュ・フローの状況

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー ■ 投資活動によるキャッシュ・フロー ■ 財務活動によるキャッシュ・フロー (単位:百万円)



会社の概要 平成28年9月30日現在

設立	1931年(昭和6年)4月1日
資本金	25億950万円
従業員数	476名(連結)
本社	福岡市博多区美野島一丁目2番8号
事業所	支店:東京・大阪・名古屋・九州 工場:基山・飯塚・宇美

役員 平成28年9月30日現在

取締役会長	坂口 盛一 代表取締役
取締役社長	後藤 信志 代表取締役 社長執行役員
取締役	坂口 茂也 常務執行役員
取締役	徳本 啓 常務執行役員
取締役	大島 正信 執行役員
取締役相談役	馬場 信哉
社外取締役	伊崎 数博 九州電力株式会社代表取締役副社長
取締役	田中 和昭 監査等委員(常勤)
社外取締役	小島 庸匡 監査等委員 小島公認会計士事務所代表
社外取締役	斉藤 芳朗 監査等委員 徳永・松崎・斉藤法律事務所代表弁護士
毛利 茂樹 執行役員	
山崎 洋 執行役員	

関連会社 ■連結子会社 ●持分法適用関連会社

国内	■ 株式会社昭和電気接点工業所 ■ 株式会社福岡機器製作所 ■ 株式会社エヌ・ティーサービス
中国	■ 恩悌(上海)商贸有限公司 ■ 上海恩悌二義美業发展有限公司 ■ 恩悌(香港)有限公司
アメリカ	■ NIPPON TUNGSTEN USA,INC.
イタリア	■ NIPPON TUNGSTEN EUROPE S.r.l.
タイ	● SVニッタン株式会社

株主メモ

決算期	3月31日
基準日	定時株主総会、期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 そのほか必要あるときはあらかじめ公告して定めます。
定時株主総会	6月
上場証券取引所	東京(2部)、福岡
証券コード	6998
公告方法	当社のホームページ(http://www.nittan.co.jp/)に掲載します。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

株式の状況 平成28年9月30日現在

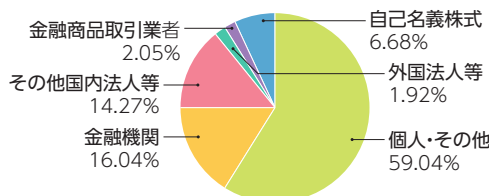
発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式の総数	25,777,600株
単元株式数	1,000株
株主総数	3,600名

■大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
九州電力株式会社	1,666	6.92
株式会社福岡銀行	1,072	4.45
日本タングステン従業員持株会	853	3.54
日本タングステン取引先持株会	659	2.73
みずほ信託銀行株式会社	643	2.67
明治安田生命保険相互会社	601	2.50
株式会社西日本シティ銀行	509	2.11
株式会社佐賀銀行	500	2.07
宇部マテリアルズ株式会社	400	1.66
吉田 省三	331	1.37

1. 持株数は、千株未満を切捨てて表示しております。
2. 上記の他、自己株式を1,724千株保有しております。
3. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

■所有者別株式分布状況



株式事務手続きに関するお問い合わせ先

●証券会社等に口座をお持ちの株主さま

住所・氏名等、届出事項の変更 配当金受取方法の変更 単元未満株式の買取請求 等	お取引の証券会社等までお問い合わせください。
未受領の配当金の お受取について	下記株主名簿管理人(みずほ信託銀行証券代行部)までお問い合わせください。

●特別口座をお持ちの株主さま

各種手続き等	下記特別口座管理機関(みずほ信託銀行証券代行部)までお問い合わせください。
--------	---------------------------------------

株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせ

みずほ信託銀行 証券代行部

〒168-8507東京都杉並区和泉二丁目8番4号

☎0120-288-324 (受付時間 土・日・祝日を除く9:00~17:00)